第11回
杉並「まち」デザイン賞

選考経過

募集対象	区内に現存し、魅力的なまちなみづくりに貢献している建物・工作物・地域活動など
募集期間	2013.04.11-07.31
応募件数	55 件
選 考 会	2013.08.29（現地視察含む）
表 彰 式	2013.11.17

11th Suginami machi design prize

救世軍恵みの家

●和田１丁目

選考委員より

高さを抑えた２階建ての建物が、植栽を施した広い歩道を介して適度なスケールに分節され雁行して建つ。建築後日も浅いが、人々の息吹と賑わいが増し、周りを取巻く植物も育ってくれれば、まちなみにしっくり馴染んだ気持ちの良い老人福祉施設になるだろう。（河野進）

所有者のお話

「特別養護老人ホーム」でありながら、“施設”らしくない建物。和田の街並みに溶け込む、明るく小さな８棟の住居の集まりです。風が通り抜け、緑が揺れ、光が舞う、そんなホーム“家”を目指しました。入居者、毎日訪れて下さるご家族、一緒に過ごす職員たちの息が吹き込まれ、日々ぬくもりを増している「恵みの家」です。

つきあたりのオアシス

●西荻北３丁目

選考委員より

自動車は通り抜けができず、Ｕターンのみできるようになっています。こちらの事例では、中央に自然な印象を与える植栽や岩石が配されていて、通りの入り口からは、ちょうど突き当りに小さな里山があるように見えます。住宅街の中での公に開かれたみどりのあり方として、今後もこのようなみどりが点在していくことで、街が潤っていく可能性に希望を感じました。
（大倉素子）

所有者のお話

100m の私道の突当りにあるロータリー。前所有者が馬車返しとして作られたそうです。今は四季折々の草花を楽しむ石庭～野鳥の水呑み場として皆様に親しまれています。北側に木々が傾く程、強い風の通り道。また、近隣に子供さんが多いため、殺虫剤は一切使用しない等々管理は大変ですが、ターシャ・テューダーの庭を目指して草むしりに励んでおります。

オオイタビの塀

●善福寺１丁目

所有者のお話

この植物は、寄せ植えの鉢の中に混じっていた苗で、プミラという名が表示されていました。（後に通りがかりの方に「オオイタビ」の名前を教えていただきました。）塀の傍に移植したところ、どんどん伸びて塀全体を覆うようになりました。西日の当たる塀が、この植物のおかげで盛夏でも熱くならず嬉しいことです。ただ、旺盛なので時々刈り込みが必要です。

所有者のお話

お手入れ大変ですねと、道行く人に声をかけていただく事があります。その甲斐あって、今回このような賞を頂くことが出来て本当にうれしく思います。新芽が出るころは、とても緑がきれいです。

選考委員より

お隣どうしで蔓の塀。ご近所の和が感じられる、素敵な緑のまちかどです。
（有吉玉青）

● 選考会を終えて（※あいうえお順）

作家
有吉　玉青 Ariyoshi Tamao

のき先に咲く花や緑は、見る人のあこがれをかきたてます。やってみようという気持ちも生まれるのではないでしょうか。美しい「まち」は、さらに美しい「まち」を作っていくように思いました。

カラーコーディネーター、杉並区まちづくり景観審議会委員
大倉　素子 Ohkura Motoko

「まち」デザイン賞の候補地を巡り、その近隣にもまちなみの美観形成に寄与している住宅や植栽、店舗などに数多く出会いました。まちなみは、そこで暮らしを紡ぐ人々によって、お互いに影響しあいながら形作られていくことを感じました。

建築家
大嶋　信道 Ohshima Nobumichi

杉並のまちなみ景観を豊かに、魅力的なものにするためには、緑の力を上手く取り入れることが、大きな鍵を握っています。応募作のなかには、庭木や花々をまちなみに向けて配置し、道行く人々を楽しませる、さまざまな試みや創意工夫が数多くみられ、作り手の方々の心意気を感じました。

建築家
河野　　進 Kohno Susumu

選考対象は住宅が多かったのですが、隣同士で生垣や緑化塀を連続させ豊かな景観を生み出したもの、四つ角に塀を設けず手入れの良い庭で緩やかに仕切ることで見通しと広がりを提供するものなど、地域に対する気配りが魅力的な「まち」を作り出しているものが印象に残りました。

女子美術大学芸術学部教授
津田　裕子 Tsuda Hiroko

記録的な酷暑の中の選考地巡りでした。出会った景観は、古いものも新しいものも大切にし、次世代に繋げたいと願う、住まう方の心意気や愛情をたくさん感じるものでした。

SUGINAMI CITY
都市整備部まちづくり推進課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南 1-15-1　TEL. 03-3312-2111